

# よろこび

日蓮宗 開聖会

本山 妙國寺

長谷山 本誓寺

## 『よるこび』五十一（幸福とは何かの再考）

貫首 齊藤 日軌

ここで以前からの考察を振り返り気がつくのは、幸福の定義は「満足すること」であったが、満足にも物質的満足や、肉体的満足から精神的満足があるから、幸福にも発展段階があると云う事である。

即、人生の伴侶、家族、権力、金、酒、ごちそう、賞賛、尊敬、羨望、愛される事、よい家、地位、名誉、友人を獲得しそれに満足することから、人に感謝し親切にする喜び、自分の使命を果たし精神的成長をする満足へと発展してゆく。この幸福の発展は個から総、物質から精神という方向へ発展してゆく。

つまり肉体的個人的な喜び幸福から精神的宇宙的幸福への発展ともいえよう。であるから、幸福は、宇宙の構造、本質を理解して考えると色々な次元のものがある事がよく分かる。



## みおしえ

「放逸おこたりの人の中にひとりいそしみうち眠る人の中にひとりよくさめたるかくの如き智者はかの足駿はやき馬のおそき馬を駆けぬくごとく彼は足早く走りゆくなり」

（法句經二十九友松園諦詠）

怠りなまけている人々のなかで、ひとりつとめはげみ、眠っている人々のなかで、ひとりよく目醒めている思慮ある人は、疾はやくはしる馬が、足のろの馬を抜いてかけるようなものである。（法句經二十九中村元詠）

人生は、死というゴールを目指してレースをするようなものです。さしずめ私たちは競走馬なのですか？無駄に過ごす時間を無くしてバランスのとれた時間を過ごすことが出来れば、私たちは、ゴールまでにいろいろな経験を通り、私たちが、悟りの世界に入ることが出来るでしょう。駿馬のように。

## 心の言葉

南無妙法蓮華經と唱え  
心を目覚めさせ  
智慧を磨こう

